



TITLE:

かあらいるノ「過去及ビ現在」(社會批評家トシテノかあらいる四)

AUTHOR(S):

石田, 憲次

---

CITATION:

石田, 憲次. かあらいるノ「過去及ビ現在」(社會批評家トシテノかあらいる四). 經濟論叢 1918, 7(1): 141-144

ISSUE DATE:

1918-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127397>

RIGHT:

京都帝國大學法學大科大學

# 經濟論叢

第七卷 第一號

大正七年七月一日發行

## 論說

剩餘價格ノ成立……………法學博士 河上 肇

相續稅批評ノ重點……………法學博士 神戶 正雄

扶養義務力救貧籍力……………法學博士 財部 靜治

さんちかりずむ概論……………法學士 河田 嗣郎

黃宗義ノ政治經濟思想……………法學士 小島 祐馬

經濟的行爲ト道德的行爲トノ關係……………法學博士 田島 錦治

分業論シテ福田博士ノ教ヲ請フ……………文學士 高田 保馬

## 時事問題

小口落禁止問題……………法學博士 戸田 海市

軍需工業動員法ニ就テ……………法學士 櫛田 民藏

## 雜錄

英吉利ノ豫算……………法學士 河田 嗣郎

南露ニ於ケル獨逸住民……………文學士 長 壽吉

かあらいるノ「過去及ビ現在」……………文學士 石田 憲次

戰費調達問題……………法學士 小島 昌太郎

かあらいるノ「過去及ビ現在」

(社會批評家トシテノかあらいる四)

石 田 憲 次

(1) ふるうどノ傳フルトコロニ據ルニ、千八百四十二年ハ英國下級民ノ最モ困難ニ陥リシ時デア  
ル。かあらいるハ此ノ頃くるむゑるノ傳ヲ著サ  
ントスル志アリ、英蘭東方諸州ヲ巡遊シタガ、  
其ノ途中ニ目睹シタ英國民ノ實情モ彼ノ心ノ平  
安ヲ助ケタモノデハ無カツタ。明クル千八百四  
十三年、彼ハ遂ニ姑クくろむゑるヲ差シ措キテ  
喫緊燃頭ノ問題ニ就テ筆ヲ執ツタ。稿ハ七週間  
ニシテ成リ、かあらいるガ最モ醜惡ナル勞働ナ  
リトイヒシ校正ニ幾週間カラ費シタル後、四月  
初旬一冊ノ書ト成ツテ書肆ノ店頭ニ出デタ、コ  
レ即チ彼ノ「過去及ビ現在」デアル。

「過去及ビ現在」ハ四篇ヨリ成ル。第一篇序論

(1) J. A. Froude, Carlyle's Life in London, Vol. 1. p. 3000-301

(Proem) ハ眞ノ序論ニシテ、英國ノ現狀ノ決シテ樂觀謳歌スベキモノニアラザルヲ述ベ、コレニ對スル救治策ノ必要ヲ力説シタモノデアアル。而シテかあらいるハ此ノ救治策ガ個人ノ覺醒以外ニアラザル事ヲ述ベテ、全體ノ基調ヲ奏デテ居ル。第二篇ノ「古ノ修道士」ハかあらいるガじようすりん・おぶ・ぶれいくろんズトイフ十二世紀ノ僧院ノ史家ヲ讀ンデ、僧院長さむそんトイフ傑僧ノ生涯ニ感ジ、コレヲ彼一流ノ精彩アル文ヲ以テ描キ出シタモノ、有名ナル歴史小説家を作るたあ・すこつとノ女婿ニシテ當時四季詳論ノ主筆タリシるつくはあとハ岳父すこつとノ外斯ク過去ノ人物ニ血肉ヲ與ヘ得ルモノハアルマジト評シタ。第三篇ノ「現代ノ勞働者」ハ再び歸リテ現代ノ世相ヲ論ジ、かあらいる一流ノ人生觀ヲ拈出シ、第四篇ノ「星占」(Horoscope)ハ現代ノ弊竇ヲ矯ムル方法ヲ暗示シ、未來ヲ觀測シテ居ル。

かあらいるガ當時ノ英國ノ社會ニ嫌ラザリシ點ハ多々アルベキモ、其ノ根柢ニ横ハルモノハ

當時ノ社會ガ虚偽ノ社會デアルトイフ事デア  
ル。

(1) 諸君ハ英國民ノ生活ノ如何ナル大道ヲ歩クモ、如何ニ僻遠ナル徑路ヲ歩クモ、「永遠」ナルモノ、「眞」ナルモノニ對スル希望ヲ抛チ、ソノ希望チ「一時的」ナルモノ、半分若クハ全ク「虚偽」ナルモノニ置イタ人、又ハ人々ノ團體ニ必ズ遭遇スルデアラサ。

(2) 自然ノ法則ハ、私ハ繰返シテイフガ、永遠デアアル。我々ハ我我ノ最奥ノ心カラ語ル自然ノ微カニ靜ケキ聲ヲナミスル事ハ出來ヌ。若シ然カセバ恐ロシキ罪科ヲ被ムル。如何ナル個人モ眞理ヲ離レテ、自ラ災害ヲ被ラザルハ無イ。如何ナル百萬人も。如何ナル二千七百萬人も。

常ニ「永遠」ニ生キ「眞理」ヲ離レザラムトスル者ハ、自ラ「多辯」ト「遊戲」トニ遠カル。彼ニトツテハ過ぎ去リ往ク生ノ一轉瞬ハ、唯一ノ機會ニシテ復アラザルモノ、義務ノ無限ノ感ジハ彼ヲ壓シ、彼ノ一舉手一投足ハ即チ天知リ地知ル。彼ハ夙夜獨ヲ慎ンデ戰々競々深淵ニ臨ムガ如ク、薄氷ヲ踏ムガ如キ外ニ生クル道ヲ知ラヌ。かあらいるガ勞働ノ神聖ヲ唱ヘ、古ノ修道士ノ格言「勞働ハ祈禱ナリ」(Laborare est orare)ヲ繰

(1) Carlyle's Past and Present. 1888 Routledge and Sons. p. 110.

(2) Ibid. p. 111.

返シ引用スル所以ハ實ニ此處ニアルノデアル。

(1) 百千ノ意味ニ於テ、眞ノ勞働ハソノ始ヨリ終迄「禮拜デアル」ソノ仕事ハ何デアラウトモ、働ク人ハ見エザルモノノ形ヲ體現セシメル。凡テ働ク者ハ小サキ詩人デアル。タトヘ唯彼ノでるふノ皿デモ、ソノ考ヘハナホ唯常人ニ見ユルノミ、半バ見ユルノミ。況ンヤ叙事詩ノソレニ於テチヤデアル。他ノ凡テノ人ニトリテソレハ猶ホ見エザルモノ、不可能ナルモノデアル。自然ニスラモ、ソハ見エザルモノ、今日迄ハ甚ダ不可能ナリシモノデアル。蓋シソレハ尙ホ未ダ物ナラザル物ナルヲ以テデアル。冥々ノ力ハ斯クノ如キ人ヲコソ看マモルベキデアル。彼ハ見エザルモノノ中ニ、見エザルモノノ爲メニ働ク。噫、若シ彼ガ唯見ユル力ノミヲ頼ラバ、彼ハソノ仕事ヲヤムルニ若カズ。彼ノ物ナラザル物ハ、決シテ正シク物トナラズ、誤魔化シトナリ、虚偽トナル。而シテソレハ寧ロナラヌガ増シテアル。

而シテ此ノ勞働神聖、義務無限ノ信念ノ當然ノ歸結トシテ伴ヒ來ルハ、幸福快樂ノ蔑視デア

ル。<sup>(2)</sup> 凡テノ仕事ハ、タトヘ紡績ニテモ高尚デアル。仕事ノミガ高尚デアアル。ソナ再ビ此處ニ言ヒ且ツ斷ゼシメヨ。而シテ同様ニ凡テノ職ハ苦痛デアアル。安樂ノ一生ハ如何ナル人ノ分ニモ非ズ、如何ナル神ノ分デモ無イ。凡テノ神々ノ生涯ハ我々ニハ崇高ナル悲哀——無限ノ勞苦ニ對スル無限ノ闘争ノ眞面

雜錄 かあらいるノ「過去及ビ現在」

目サトシテ描キ出サレル。我々ノ最高ノ宗教ハ「悲哀ノ禮拜」ト名ケラレテ居ル。人ノ子ニハ、フサハシグトモフサハシカラズトモ、荆ノ冠ニ他ニ如何ナル尊キ冠モ無イ。

以上ガかあらいるノ人生觀ノ一斑デアル。而シテ彼ハカカル人生觀ガ當代ニ全ク跡ヲ絶テルト思ヘル時、十二世紀ノ僧サむそんニ其ノ體現ヲ見出シタノデアル。吾人ハかあらいるノ筆ニヨリテ此ノ傑僧ノアラユル方面、アラユル特長ヲ見ル。彼ノ寡黙、彼ノ實務的手腕、彼ノ敬虔、彼ノ蔽ヒ隠サレタル温情、彼ノ眞直ナル背、高キ鼻、射ルガ如キ眼光。かあらいるノ理想ノ世界ハ萬人皆ナソレゾレ僧院長サむそんノ心ニ住スル時ニ始メテ實現セラレルデアラウ。かあらいるノ理想ハ高ク、現代救済ノ策ハ實地ニ疎イヤウデアルケレドモ、當座ノ瀾縈策ヲ論ゼス、眼ヲ高處ヨリ下シテ、大聲俚耳ニ入ラザル言ヲ爲ストコロニ彼ノ彼タルトコロガアルノデアル。併シナガラ勞働者ノ饑餓ニ瀕セルハ火急焦眉ノ問題デアアル。從ツテ彼ノ憤慨ハ治者階級タル貴族、資本主勞働使役者タル商工業者ニ注ガレ

(1) Ibid, p. 154.

(2) Ibid, p. 119

ザルヲ得ナイ。かあらいのガ前者ニ憐ラザルハ主トシテソノ怠惰デアル。後者ニ憐ラザルハ主トシテ其ノ黄金崇拜デアル。

かあらいの考ヘニヨルニ、萬民平等ナリトイフハ全ク近代ノ僻見デアル。人ハ生レナガラニシテ或ル人ノ奴隸タリ、或ル人ノ同輩タリ、或ル人ノ主長デアル。自由ノ意義ニ就テモかあらいの意見ハ普通ノト異ナル。

(1) 確カニ人ガ賤ミ得ル凡テノ道ノ中、如何ナル與ヘラレタル瞬間ニテモ凡テノ人ニ對シテ必ズ最モ良キ道ガアル。凡テノ物ノ中此ノ處此ノ時ニ於テ彼ガ爲スガ最モ賢カルベキ事ガアル。唯彼ヲ導キ若クハ驅ソテコレヲ爲サシムルヲ得レバ、彼ハ、其ノ時我々が世話ニイフ如ク「人ヲシクナリ、神人皆彼ト融和シ、全宇宙ハ融ニ彼ニ對シテ賞讃ノ叫ビヲ舉ゲルデアラウ。カカル場合ニアリテハ彼ノ成功ハ完全デアリ、彼ノ幸福ハ最大デアル。モノ道、コレヲ見出シテソチ踐ム事コソ、彼ニトリテ唯一ツ無クテ叶フマシキモノ、ソノ道ニ彼ヲ進ムルモノハ何ニテモアレ、タトヘ打擲足蹴ノ形ヲ取り來ラムトモ自由デアル。彼ヲ妨グルモノハ、區會ニテモ、公開教區委員會ニ於テモ、選舉事務所ニテモ、揚子橋ガス喇采ニテモ、河ナス麥酒ニテモ、何ニテモ奴隸状態デアル。

コノ故ニ彼ハ眞ニ有力有能ナル治者階級ガ出

デテ、下民ヲ統治スル事ヲ熱望スルノデアル。彼ハ此ノ點ニ於テ民主主義ニ反對シ、寧ロ貴族主義ノ人デアル。

金錢ノ報酬ガ人々ノ間ノ唯一ノ連結デアルトイフ商工業者ノ思想ハ無論かあらいの反對スルトコロデアル。單ニ人間ノ勞働能率ヲ高ムル上ヨリイフモ、人間相互間ノ融和了解ガ望マシキ事ヲ指摘セルハ、後年らすきんがあんつう。びす・らすとニ於テセルト同ジク、而シテ二人トモ勞働者ニ日傭制度以上ニ永續的ナ安心ヲ與フル事ノ必要ヲ力説シテ居ル。

(1) 一度常任トナレバ、諸君ハ諸君ノ道程ニアル第一ノ困難ニ不平等ヲ鳴ラシ、女々シキ嫌厭ノ情ヲ起シテソチ棄テ去リハセヌ。諸君ハソレヲ棄テ去ルベカラザル事、ソレニ打勝タレザルベカラズ、ソレニ闘シテ賢キ手段ヲ案出セザルベカラザル事ヲ反省スル。

(2) 噫、永ヘニ變リ動キ、此處ニアラズ彼處ニコソトイフ愚カナ人々ヨ、若シ人堅忍セバ、到ル處彼ニトリテ兩印度ヨリ豊ケキ富ノ横ル事ヨ。……人ノ富トハ彼ガ愛シ且ツ祝福シ、ソノ報トシテソレニヨリマタ愛シ且ツ祝福セラルル物ノ總數ナリ。

(1) Ibid. p. 163  
 (2) Ibid. p. 204-5  
 (3) Ruskin, Unto this Last. Essay I. § 9.  
 (4) Carlyle's Past and Present. Book IV, Chap. V, Permanence. Ruskin, Unto this Last, Essay I. § 16  
 (1) Ibid. p. 209.  
 (2) " , p. 210.

かあらいるハ斯ク現代ノ傾向悉クニ慄焉タラザル如クデアルガ、然ラバ前途ニ光明ヲ認メザルカトイフニ然ラズ。英國民ハ元來寡黙ニシテ實際的ノ國民デアル。凡テ勞働メルモノニハ希望ガアル。故ニ今ノ黃金崇拜ノ迷夢ノ裡ニアル商工業者ニテモ、ソノ覺醒スル時ハ、ヤガテ新シキ義務ヲ見出シ、萬事ヲ解決スルデアラウ。組織訓練ノ必要ト效果トハ現代ニ於テ唯一ノ有能ノ團體タル彼ノ軍隊ニ見テ明カデアル。勞働者ノ能率ヲ高ムル爲メニモ組織ト訓練トノ必要ナルハ、彼等ガ眞ノ自利ニ目覺メ來ル時ハ看過シ得ザル事デアル。